



▲混み合う滝沢ふるさと交流館駐車場

Q 公共施設の駐車確保は おおむね十分と考える

ひなた
清一 議員（春緑クラブ）

公共施設の駐車場は十分か。

A1 Q1

大きな催事場として位置づけられる滝沢総合公園の駐車場は、普通車ほか550台駐車できますが大会などが開催される場合は、体育館周辺の駐車場を利用させていただいております。大きなイベントの多くは、土、日、祝祭日に開催されますが、そ

の場合は役場駐車場で概ね間に合っています。

滝沢ふるさと交流館では109台分の駐車場を確保しているもの

、現有する駐車スペースで対応しきれない数の来館者が見込まれる場合がありますが、こうした状況は土、日、祝祭日であり事前に予測できますので、主催者で確保するよう協力をお願いしています。

指定管理者移行後の評価は。
指定管理の次期公募は。

A2 Q2

現在23の施設を指定管理制度へ移行しておりますが、

17年と18年比較ではふるさと交流館では利用件数で33%、利用人数

で13.2%、使用料では27.8%で大幅な増となっており、お山の湯においても施設利用受付時間の延長や休館日が少なくなり利用者サービスの向上がはかられております。また、総合公園の場合、芝の日常的な管理など行なうことにより、きめ細やかな施設管理が行

なわれ、各施設とも施設管理の一元化が図られ、利用者に密着した管理運営がなされております。

A3 Q3

指定管理者の指定手続きに関する条例のなかに公募によらない選定として、公の施設の性格、規模、機能などを考慮し、設置目的を効果的かつ効率的に達成するため、地域などの活力を積極的に活用した管理を行なうことにより事業効果が明確に期待できると判断するときは公募によらず選定する場合もあります。

A4 Q4

自主事業の減免の考えは。

各施設で指定管理団体が自主事業を積極的に行なっておりますが、主催者の負担が発生しないよう今後検討してまいります。

Q 村の中期財政見通しは**A 5年間で24億円不足**

柳村 一 議員
(新志会)

①見通しの基本的な考え方。
②20年度予算編成への反映は。
③財政健全化に向けた取り組みは。

A1 ①20年度実行計画を基本に推計しています。人口増加の伸びは鈍化していますが、少子高齢化対策の需要の増加や村債償還ペーク期間が数年続くことから、義務的経費が歳出の半分近くを占める状況が続きます。また、税収等の増大も見込めず、5年間の財源不足は24億円にのぼり、大変厳しい見込みです。

②見通しを指針として編成を進めます。

③加速アクションプラン等により改善を図り、事業の見直しを行います。また、基金保有額や村債残高等の目標を策定し、自立して持続可能な財政運営を行うための計画として「中期財政計画」を20年2月頃までに策定します。



▲広域連携検討会議

組織体制の見直しの考え方

①各部署の仕事量と職員数の整合はどれているのか。
②フラット化見直しの考え方。

A2 ①職員数を抑制し、効率的な組織運営を行っています。
しかし、新たな事務の増加により、人事ヒアリングを行いながら、「第3次滝沢村職員定員管理

計画」を策定しているところであります。

②フラット化による効率的な組織運営を行っていますが、意思決定が早い反面、業務の細分化により、チェック機能が低下しているため、組織のあり方を一年かけて検討します。

広域行政の連携のあり方は

Q3 盛岡市からの広域連携の呼びかけに対する考え方と今後の展開は。

A3 提案に対しても参加の意向を示しました。設置に当たっては、5市町村に限らず盛岡圏全体に参加を呼びかけ検討を行うことが効果的であり、個別具体的な課題では、連携可能な市町村から取組む必要があると意見を伝えました。さらに、盛岡地方振興局の機能分担も含めて検討する必要があると考えます。